

# 中小企業景況調査報告書

(大分県商工会地域)

---

2020年1月～3月実績

---

2020年4月～6月予測

---

2020年3月

大分県商工会連合会

# I. 調査要領

## 1 対象期間

2020年1～3月期（調査時点：2020年3月1日）

## 2 調査対象

(1) 対象地区 10商工会地区

(中津市しもげ、宇佐両院、西国東、国東市、杵築市、日田地区、由布市、九州アルプス、豊後大野市、佐伯市あまべ)

(2) 対象企業数 148企業

製造業28企業、建設業24企業、小売業38企業 サービス業58企業

(3) 企業規模 ア 製造業、建設業では従業員300人以下または資本金3億円以下。

ただし、おおむね80%は従業員20人以下とする。

イ 小売業では従業員50人以下または資本金5千万円以下。

ただし、80%は従業員5人以下とする。

ウ サービス業では従業員100人以下または資本金5千万円以下。

ただし、80%は従業員5人以下とする。

## 3 回収状況 148企業

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率(%)
製造業	29	(19.3)	28	(18.9)	100.0
建設業	24	(16.0)	24	(16.0)	100.0
小売業	39	(26.0)	38	(25.6)	100.0
サービス業	58	(38.7)	58	(38.7)	100.0
合計	150	(100.0)	148	(100.0)	100.0

※（ ）内は構成比（%）

## 4 調査方法

(1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査

(2) 調査対象地区の選定は、商工会地区市町村人口規模別実態を勘案して行い、調査対象企業の抽出は業種、規模等有意選出法による。

## 5 その他

DI (Diffusion Index) とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての「増加（上昇・好転）」したとする企業割合から「減少（低下・悪化）」したとする企業割合を引いた値を示すものである。

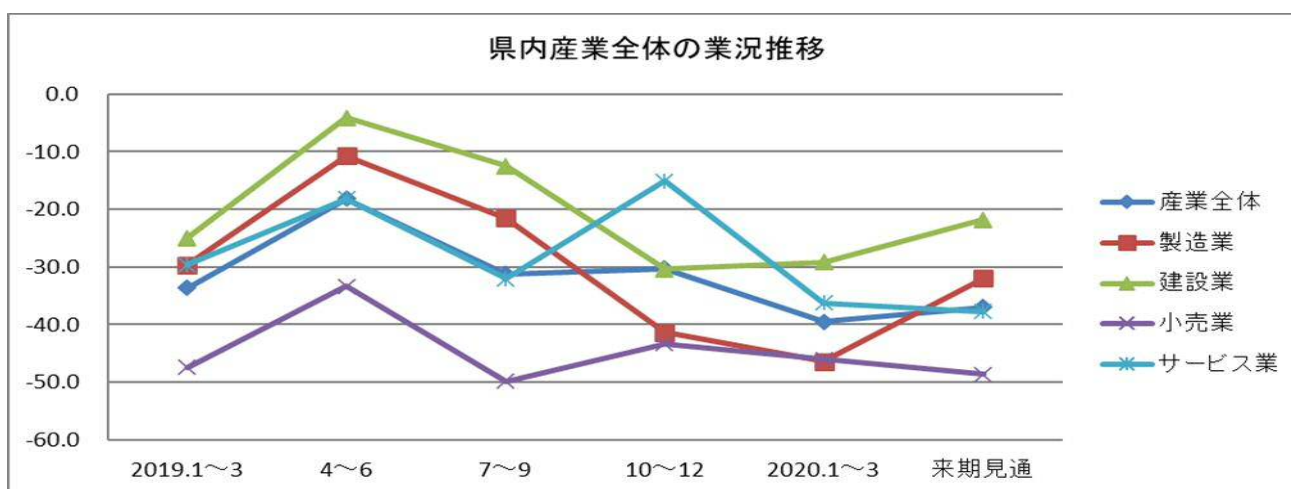
## II. 県内産業全体の業況概況

県内商工会地域における今期（2020年1月～3月期）の中小企業景況調査の結果をみると、産業全体における業況については、景気動向指数（DI値）は△39.5ポイントであり、前期比△9.2ポイント悪化となった。

業種別にみると、製造業（前回△41.4→今回△46.4）が5.0ポイント悪化、建設業（前回△30.4→今回△29.2）が1.2ポイント改善、小売業（前回△43.3→今回△46.0）が2.7ポイント悪化、サービス業（前回△15.1→今回△36.3）が21.2ポイント悪化した。

来期（2020年4月～6月期）の産業全体の見通しでは、今期より2.5ポイント改善の△37.0ポイントとなり、改善の見通しとなっている。

業種別にみると、製造業、小売業は改善の見通しとなっているものの、建設業、サービス業は悪化の見通しである。



### 業界景況天気図（商工会地域）

	2019.1~3		2019.4~6		2019.7~9		2019.10~12		2020.1~3		見通し 2020.4~6	
産業全体		△33.6		△18.2		△31.2		△30.3		△39.5		△37.0
製造業		△29.6		△10.7		△21.5		△41.4		△46.4		△32.0
建設業		△25.0		△4.1		△12.5		△30.4		△29.2		△21.8
小売業		△47.4		△33.4		△49.9		△43.3		△46.0		△48.7
サービス業		△29.6		△18.2		△32.1		△15.1		△36.3		△37.7

50.1～100  
快晴

20.1～50.0  
晴れ

0.1～20.0  
薄くもり

△20.0～0.0  
くもり

△50.0～△20.1  
くもり・雨

△100～△50.1  
雨

### Ⅲ. 業種別動向

#### 1 製造業の動向

県内の製造業における「売上額」については、前回調査に比べ5.4ポイント悪化。「採算」については、8.1ポイント改善、「資金繰り」については、4.5ポイントの悪化となった。全国平均と比べると「売上額」、「資金繰り」で下回り、「採算」で上回った。来期の見通しは、「売上額」、「資金繰り」で改善の見込み、「採算」で悪化の見込みである。

#### (1) 全国と比較した主要項目の推移

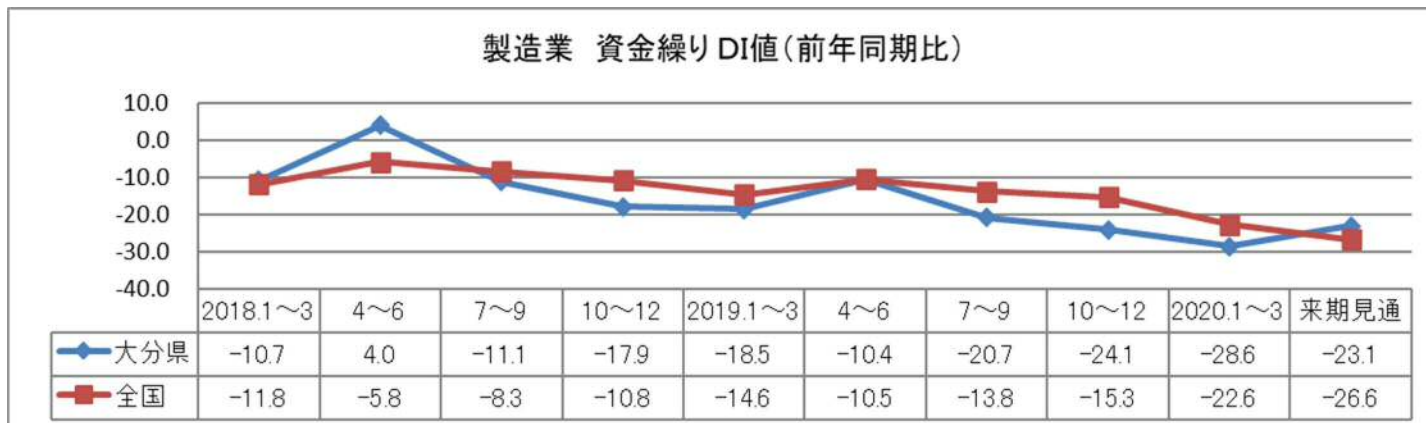
##### ① 売上（加工）額



##### ② 採算（経常利益）



##### ③ 資金繰り

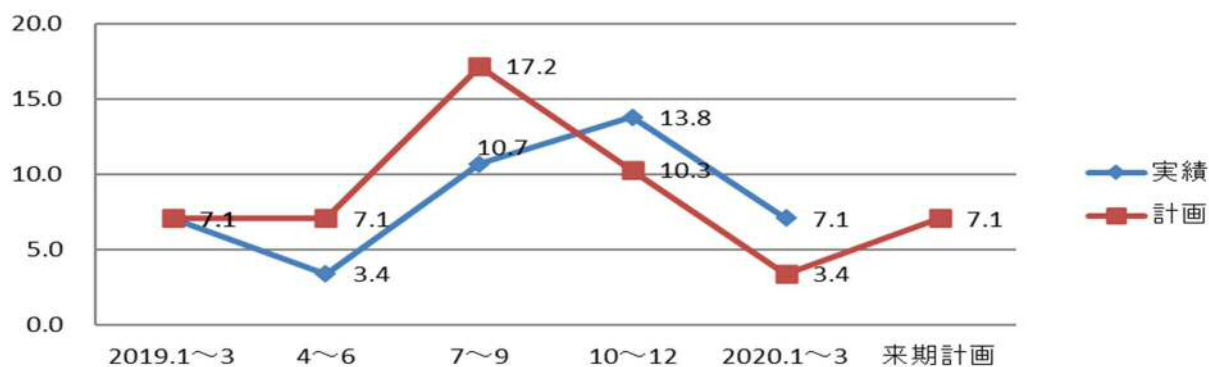


## (2) 設備投資（新規設備投資の状況）

今期、設備投資を実施した企業は2社（7.1%）であった。前期（2019年10月～12月期）の実施企業が4社（13.8%）であったため、2社減少の状況。来期は、2社（7.1%）が設備投資を計画しており、今期に比べ横ばいの見通しである。

	あり	投資内容								なし
		土地	工場建物	生産設備	車両・運搬具	付帯設備	OA機器	福利厚生施設	その他	
前期実施（実数）	4	0	0	2	0	0	0	0	2	25
（%）	13.8	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	86.2
今期実施（実数）	2	0	0	2	0	0	0	0	0	26
（%）	7.1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	92.9
来期計画（実数）	2	0	0	1	0	0	0	1	0	26
（%）	7.1	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	92.9

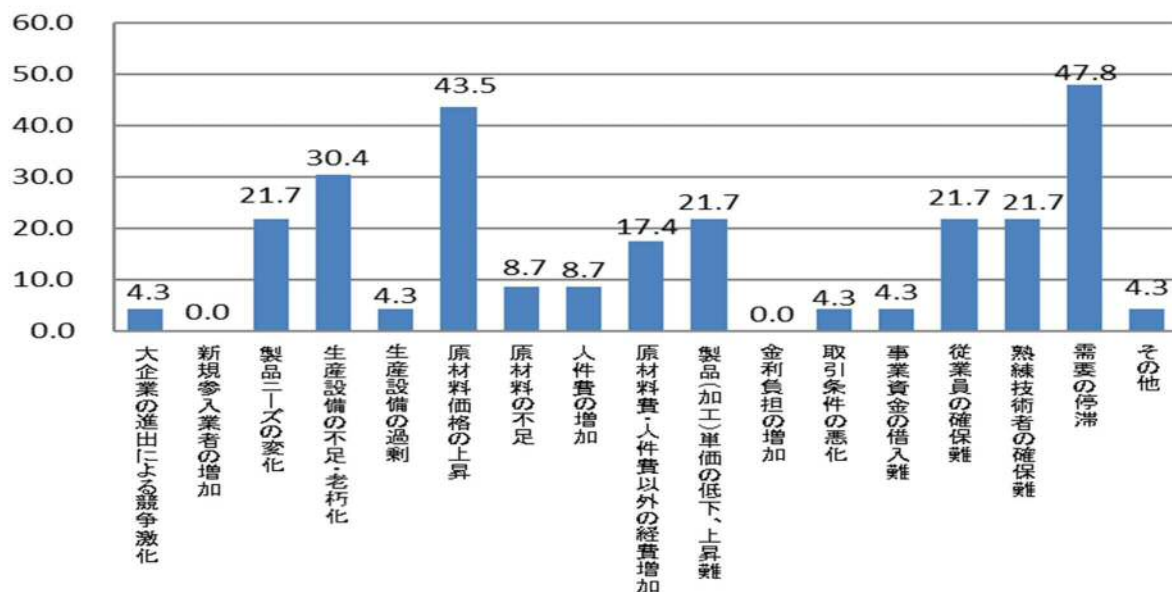
### 製造業 設備投資の状況



## (3) 経営上の問題点（1位～3位の問題点）

今期、多かった問題点は「需要の停滞」（前期 38.5%→今期 47.8%）「原材料価格の上昇」（前期 53.8%→今期 43.5%）、「生産設備の不足・老朽化」（前期 15.4%→今期 30.4%）となっている。

### 製造業 経営上の問題点



## 2 建設業の動向

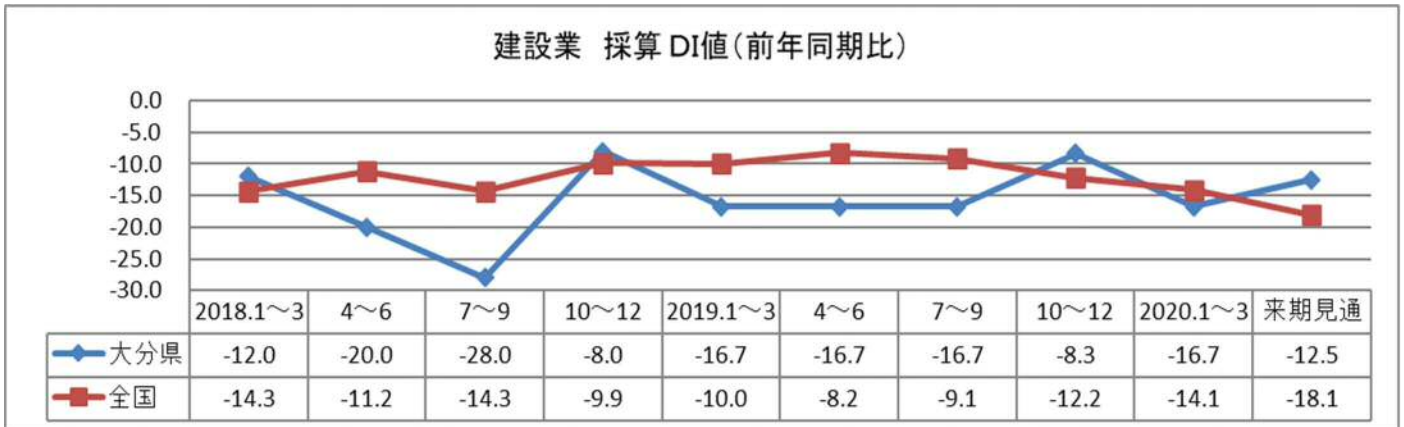
県内の建設業における「受注（新規契約工事）」については、前回調査に比べ4.2ポイント改善。「採算」については8.4ポイント悪化、「資金繰り」については、8.4ポイント改善した。また、全国平均と比べると「受注（新規契約工事）額」、「採算」で下回り、「資金繰り」で上回った。来期の見通しは、「受注（新規契約工事）額」で変化せず、「採算」で改善、「資金繰り」で悪化の見込みである。

### (1) 全国と比較した主要項目の推移

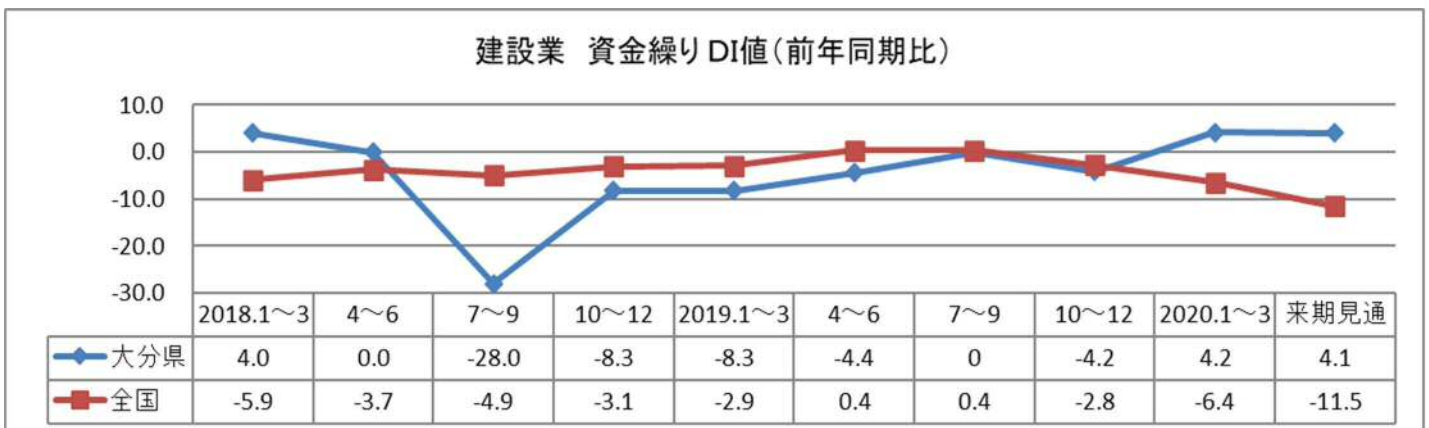
#### ①受注（新規契約工事）額



#### ②採算（経常利益）



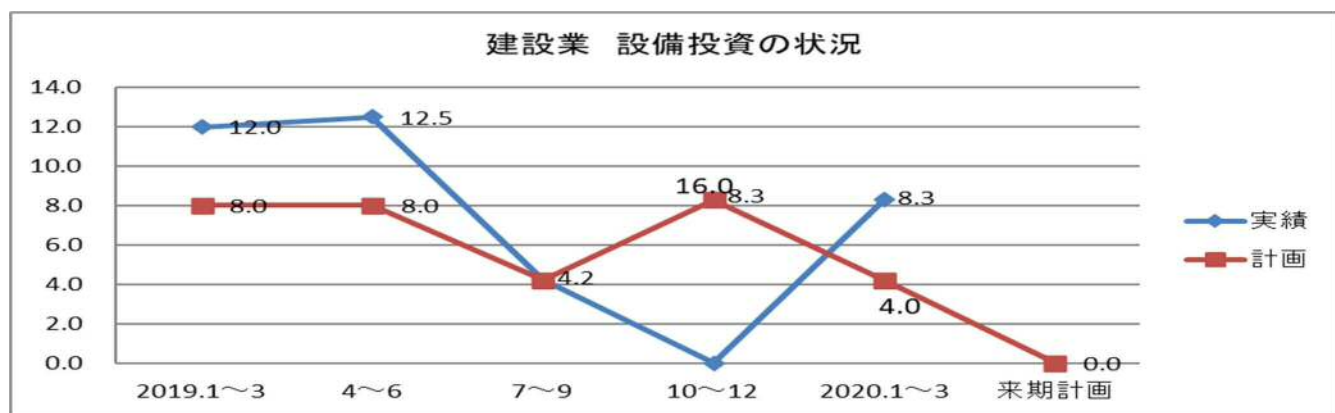
#### ③資金繰り



## (2) 設備投資（新規設備投資の状況）

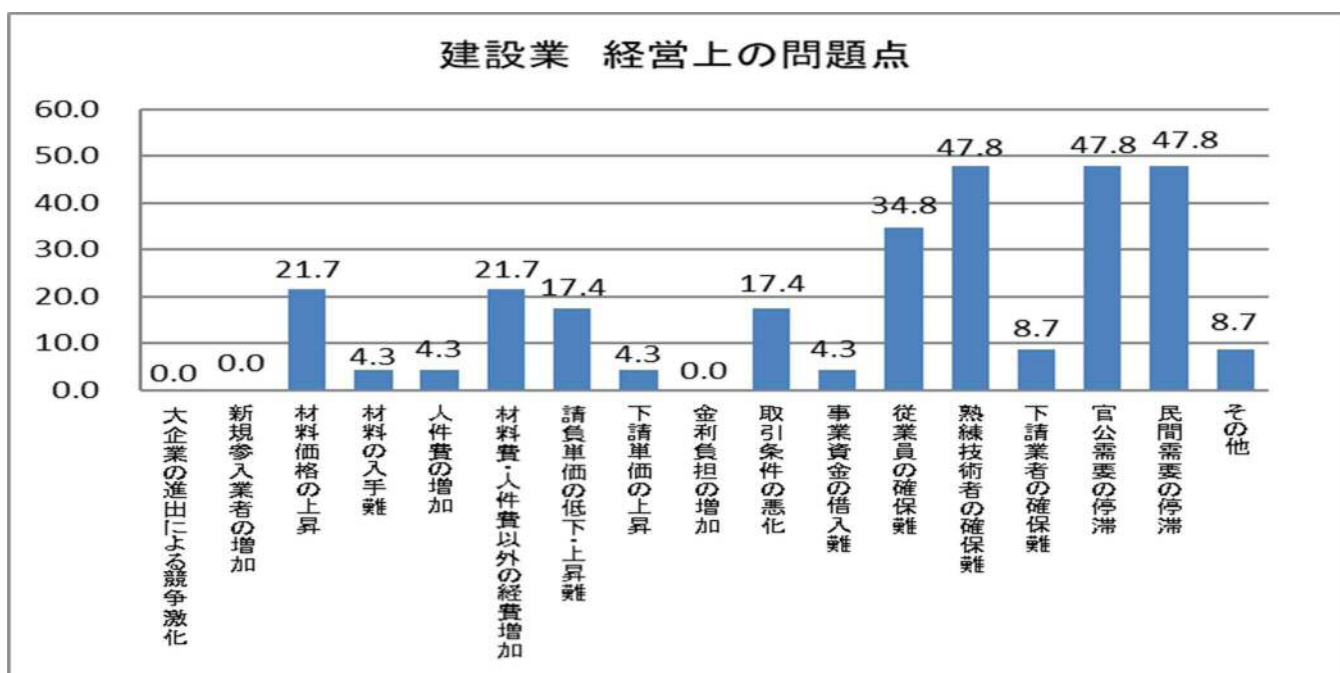
今期、設備投資を実施した企業は2社（8.3%）であった。前期（2019年10月～12月期）の実施企業が0社（0.0%）であったため、2社増加の状況。来期は、0社（0.0%）が設備投資を計画しており、今期に比べ2社減少の見通しである。

	あり	投資内容								なし
		土地	建物	建設機械	車両・運搬具	付帯設備	OA機器	福利厚生施設	その他	
前期実施（実数）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
（%）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
今期実施（実数）	2	0	1	1	0	0	0	0	0	22
（%）	8.3	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	91.7
来期計画（実数）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
（%）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0



## (3) 経営上の問題点（1位～3位の問題点）

今期、多かった問題点は「熟練技術者の確保難」（前期 47.8%→今期 47.8%）、「官公需要の停滞」（前期 43.5%→今期 47.8%）、「民間需要の停滞」（前期 43.5%→今期 47.8%）となっている。



### 3 小売業の動向

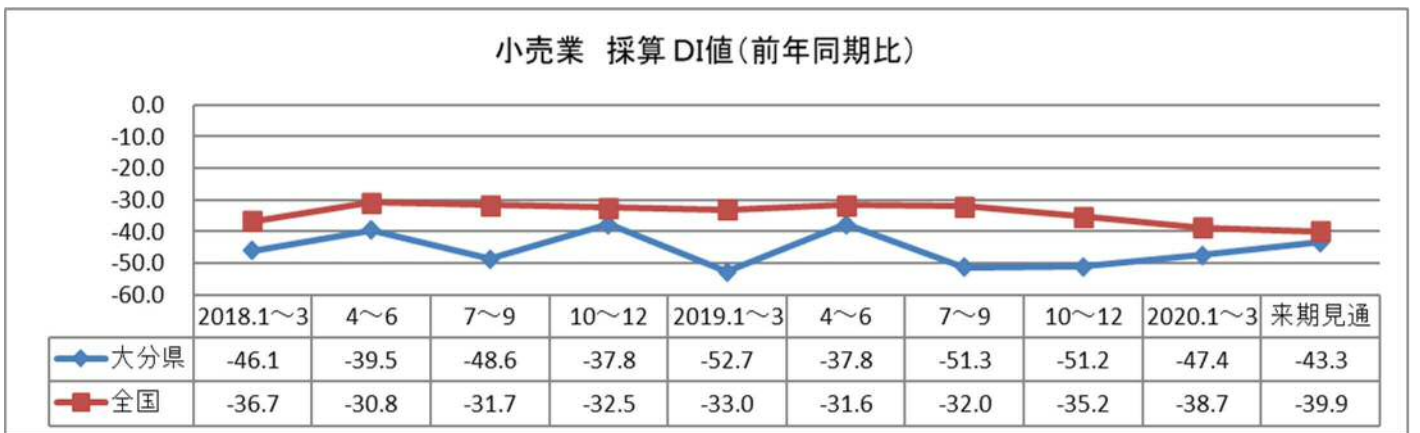
県内の小売業における「売上額」については、前回調査に比べ5.3ポイント悪化。「採算」については3.8ポイントの改善、「資金繰り」についても、3.8ポイントの改善であった。「売上額」、「採算」、「資金繰り」全ての項目で、全国平均を下回っている。来期の見通しは、「売上額」、「採算」で改善、「資金繰り」で悪化の見込みである。

#### (1) 全国と比較した主要項目の推移

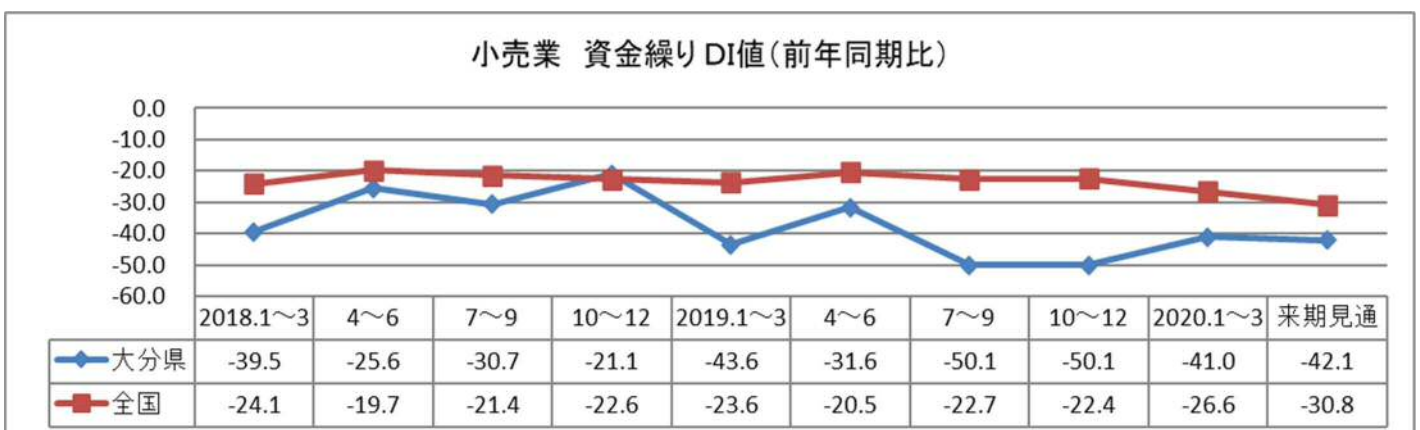
##### ① 売上額



##### ② 採算 (経常利益)



##### ③ 資金繰り

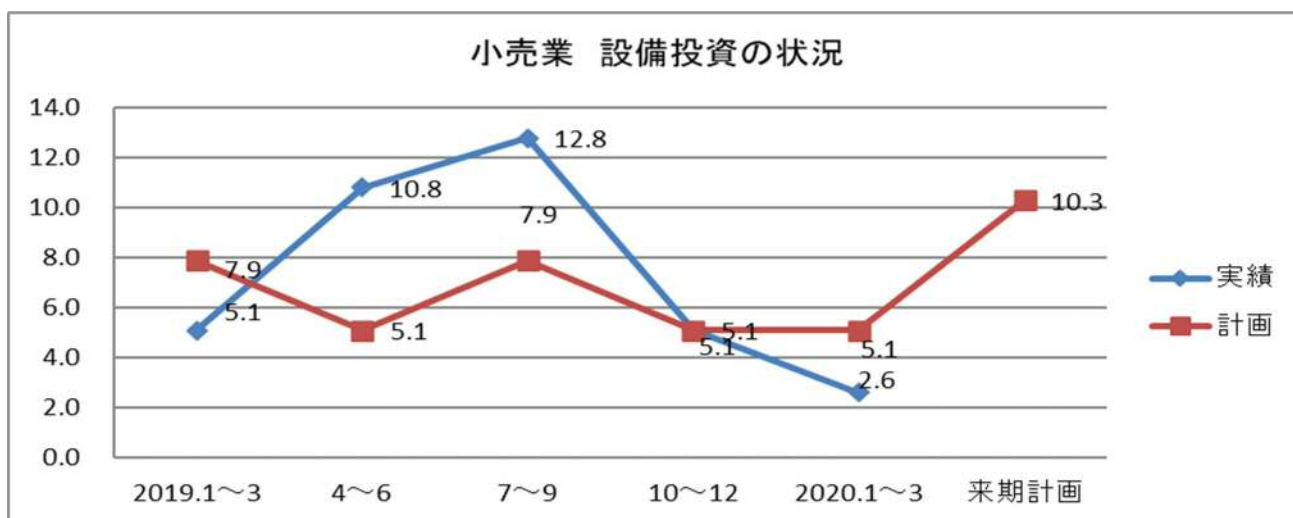




## (2) 設備投資（新規設備投資の状況）

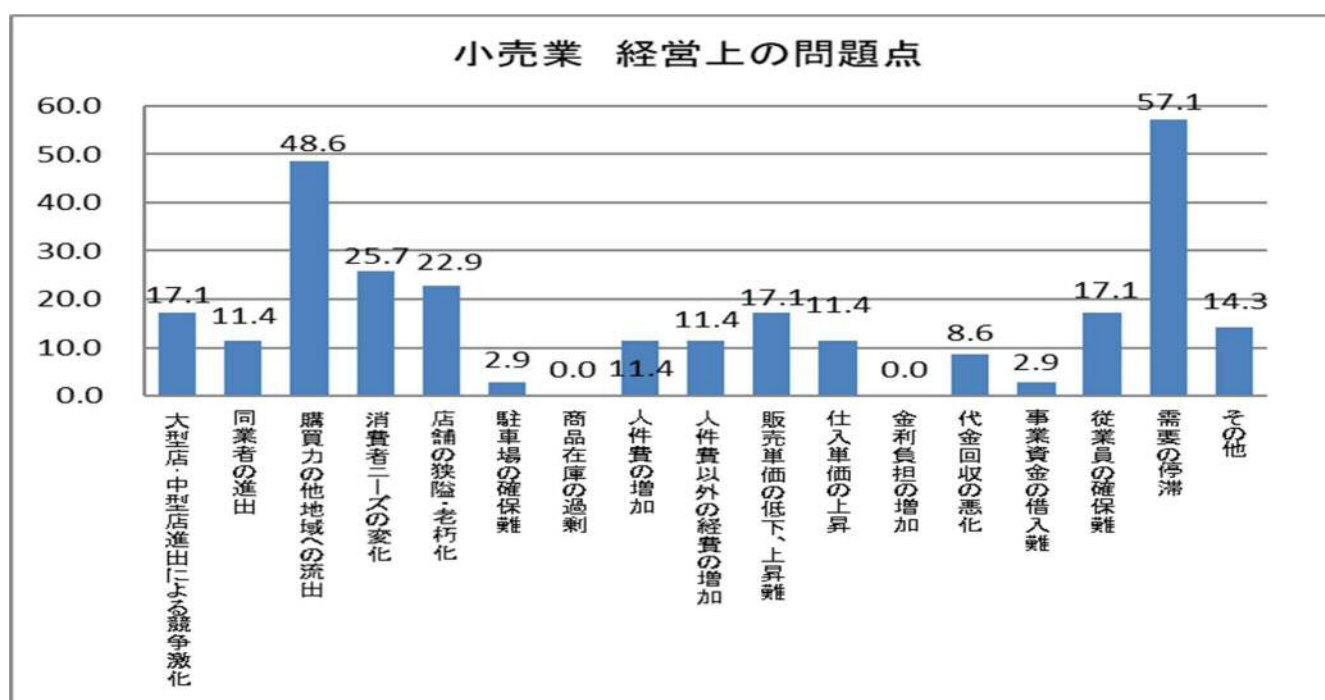
今期、設備投資を実施した企業は1社（2.6%）であった。前期（2019年10月～12月期）の実施企業が2社（5.1%）であったため、1社減少であった。来期は4社（10.3%）が設備投資等を計画しており、3社増加の見通しである。

	あり	投資内容								なし
		土地	店舗	販売設備	車両・運搬具	付帯設備	OA機器	福利厚生施設	その他	
前期実施（実数）	2	0	0	1	0	1	0	0	0	37
（%）	5.1	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	94.9
今期実施（実数）	1	0	0	0	1	0	0	0	0	37
（%）	2.6	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	97.4
来期計画（実数）	4	0	1	3	0	0	0	0	0	35
（%）	10.3	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	89.7



## (3) 経営上の問題点（1位～3位の問題点）

今期、多かった問題点は「需要の停滞」（前期 47.1%→今期 57.1%）、「購買力の他地域への流出」（前期 50.0%→今期 48.6%）、「消費者ニーズの変化」（前期 38.2%→今期 25.7%）となっている。

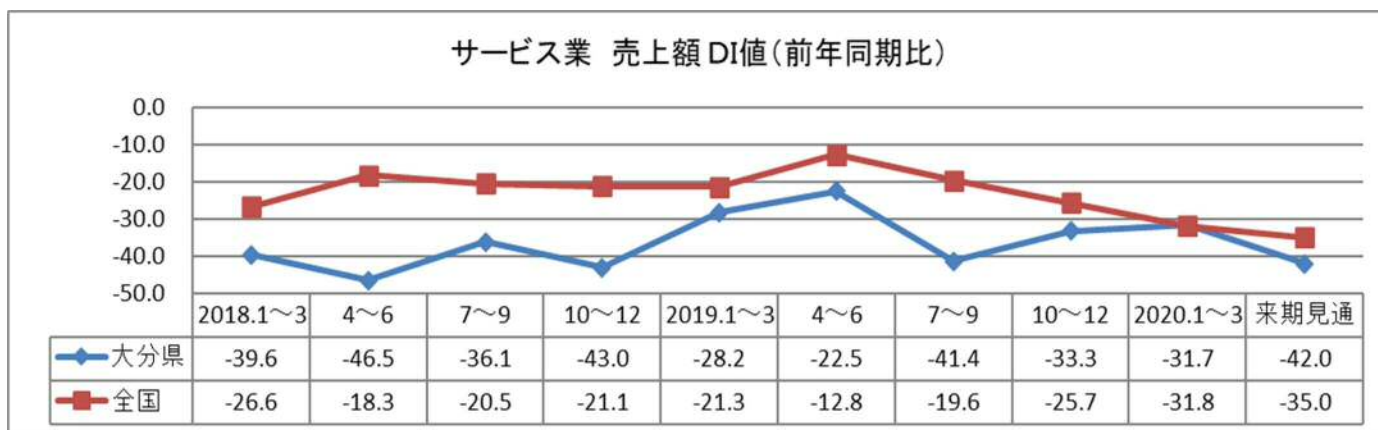


## 4 サービス業の動向

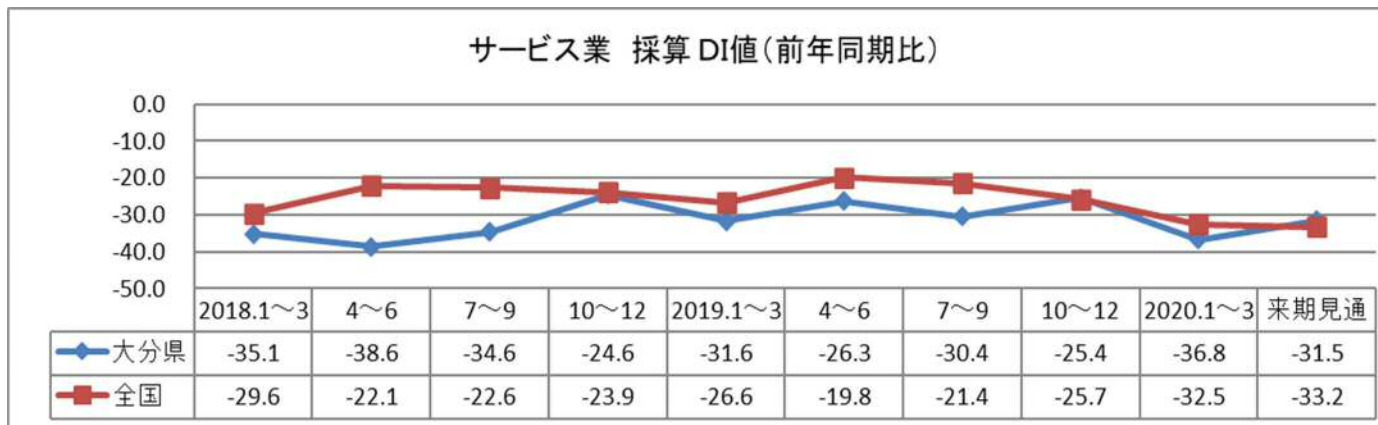
県内のサービス業における「売上額」については、前回調査に比べ1.6ポイント改善。「採算」については、11.4ポイントの悪化、「資金繰り」については、7.5ポイントの悪化となった。「採算」、「資金繰り」で、全国平均を下回り、「売上額」で上回っている。来期の見通しは、「採算」、「資金繰り」で改善の見込みであり、「売上額」で悪化の見込みである。

### (1) 全国と比較した主要項目の推移

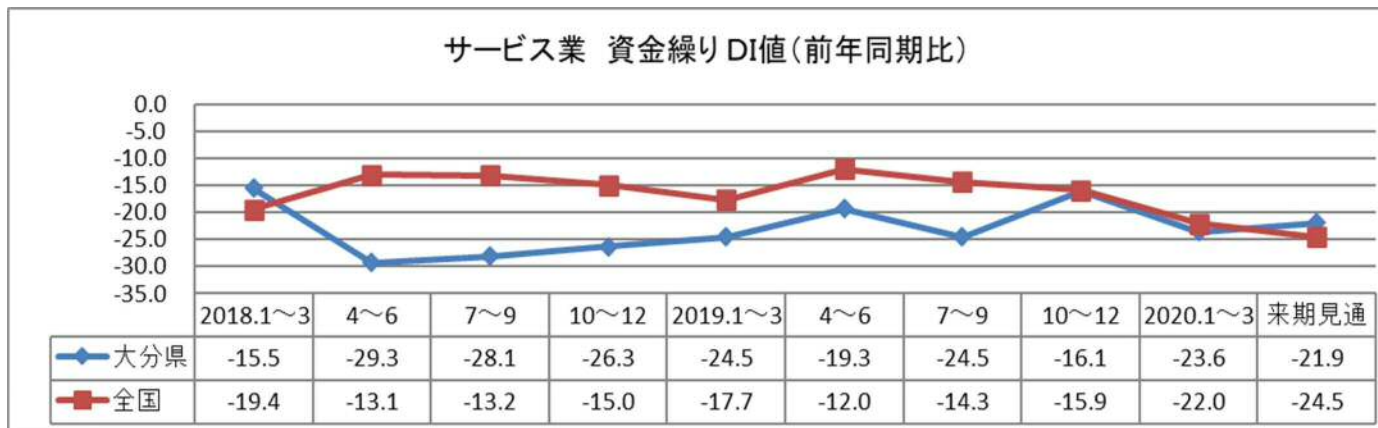
#### ① 売上（収入）額



#### ② 採算（経常利益）



#### ③ 資金繰り

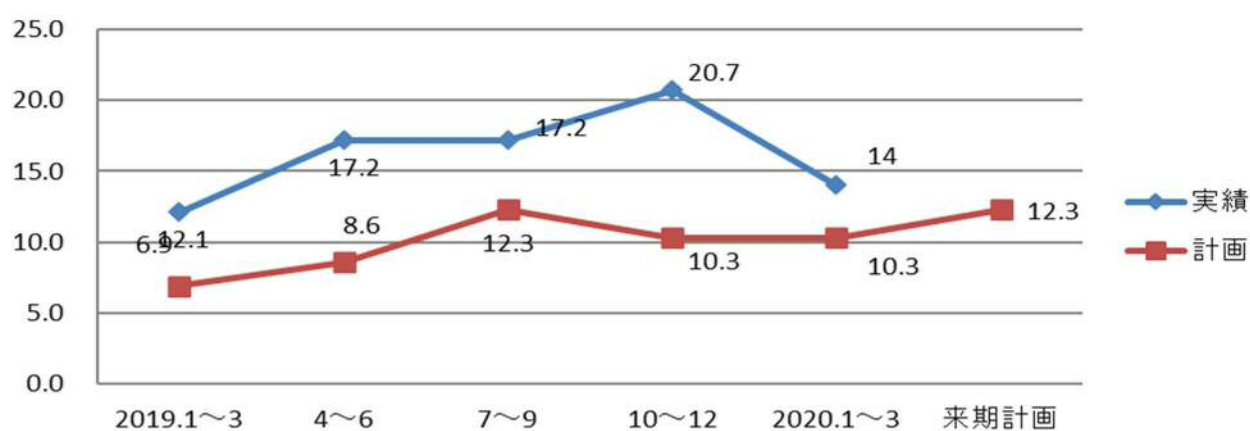


## (2) 設備投資（新規設備投資の状況）

今期、設備投資を実施した企業は8社（14.0%）。前期（2019年10月～12月期）の実施企業が12社（20.7%）のため4社減少。来期は7社（12.3%）が設備投資を計画しており、1社減少の見込みである。

	あり	投資内容								なし
		土地	建物	サービス	車両・運搬具	付帯設備	OA機器	福利厚生施設	その他	
前期実施（実数）	12	0	4	7	1	1	1	1	3	46
（%）	20.7	0.0	33.3	58.3	8.3	8.3	8.3	8.3	25.0	79.3
今期実施（実数）	8	0	2	3	1	3	1	0	1	49
（%）	14.0	0.0	25.0	37.5	12.5	37.5	12.5	0.0	12.5	86.0
来期計画（実数）	7	1	3	3	0	2	0	1	1	50
（%）	12.3	14.3	42.9	42.9	0.0	28.6	0.0	14.3	14.3	87.7

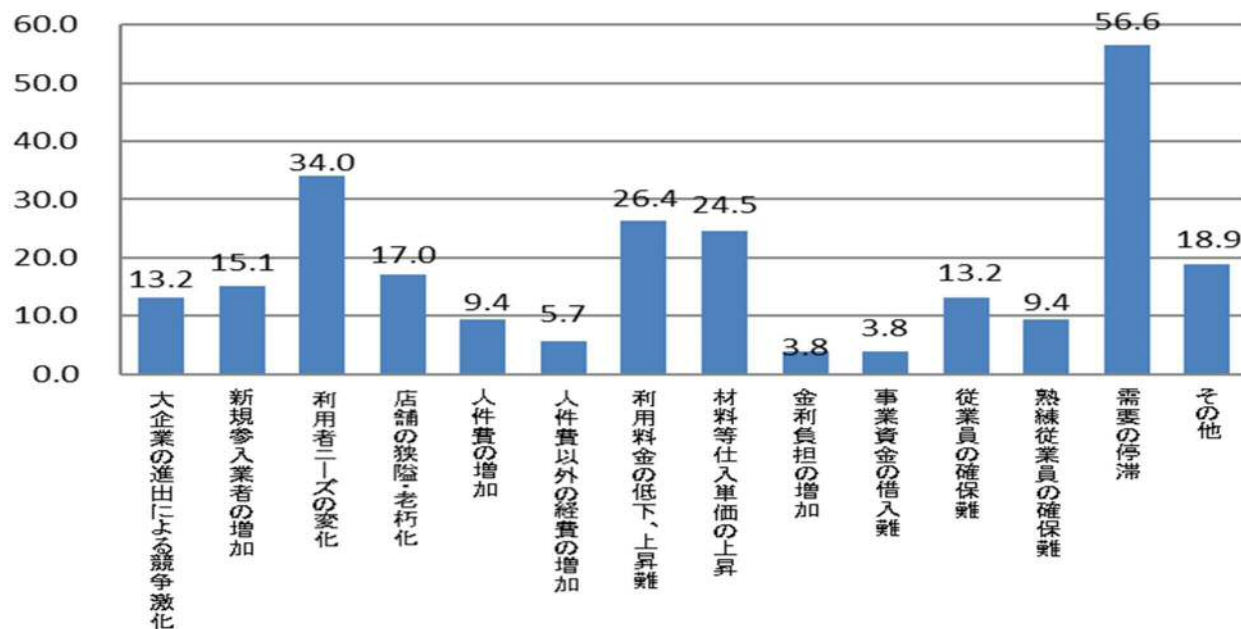
### サービス業 設備投資の状況



## (3) 経営上の問題点（1位～3位の問題点）

今期、多かった問題点は、「需要の停滞」（前期 39.6%→今期 56.6%）、「利用者ニーズの変化」（前期 45.3%→今期 34.0%）、「利用料金の低下、上昇難」（前期 17.3%→今期 26.4%）となっている。

### サービス業 経営上の問題点



#### IV. 調査対象企業の主なコメント

業種	内 容
製造業	<p>◆コロナウイルスの影響がどうでてくるか不安がある。◆コロナウイルスの影響で売上が減少している。催事に出展するなどして売り上げを上昇させる計画である。◆中国と米国の貿易摩擦及び日韓の関係からくる受注減の影響が否めない。また、自動車関連の引き合いもこの2カ月低調である。◆コロナウイルスにより観光が激減し自社の小売が減少するだけでなく得意先にも影響が及んでいる。今後回復する見通しがたたない。◆前年と比べ大幅な減少はないが徐々に減少している感覚がある。3月の売上は確保できているが4月以降については不透明である。少なからずコロナウイルスの影響が出てくると思うので不安を感じている。◆観光地での観光客の減少により取引先の売上の減少と自店の売上の減少が特に感じています。そのため、新たな市場（用途）の開発が必要です。</p>
建設業	<p>◆受注工事は好調である。この状態を続けていけば借入返済も順調に減少すると思うので、常時仕事を確保していきたい。◆人手不足により、現場を多数抱えることは難しい。ハローワークに募集を出しているが改善されていない。◆消費税増税の影響で売上は、やや減少している。3月が繁忙期となるが、今回のコロナウイルスの影響がどのようにでてくるか懸念している。◆受注が減少。外注に回さなくてすむので現状は適正な取引量ではある。◆今後は外国人労働者を増やして人事不足に対応したい。◆人材の不足や熟練技術者の育成が今後の目標となるようです。他社は外国人の雇用が増加しているようだが、なるべくなら日本人の雇用を確保したいと思う。◆従業員の確保が困難である。林業関係には問い合わせがあるようだが、土木には問い合わせがない。今後も不安です。</p>
小売業	<p>◆昨年末からの新型コロナウイルスの影響か、外出（特に遠出）を控えるほうが徐々に増えてきているように感じる。◆前年度からの経費削減の成果も出て、例年売上の悪い時期ですが、状況はそこまで悲観的ではないようです。ただ、今後コロナウイルスの蔓延は当社のような観光施設にはかなりの痛手になると思われます。◆年末の繁忙期を終えて需要が停滞するので、この時期に景況が好転することはない。増税により仕入れ単価が上昇しており、わずかだが影響が出ていると思う。しかし仕入れに慎重になっている分、在庫管理が適正にできている◆人口減などによる定例的売上減と、コロナウイルスによる祭事などの自粛による売上減（大幅な）近隣にできる大手コンビニ店の進出などで事業が継続可能かいつも不安です。</p>
サービス業	<p>◆利用客が高齢化し、集客がむずかしい。若い人向けにホームページやSNSで広報するも、なかなか集客に結びつかない。◆今後、コロナウイルスの影響がどうでてくるかが心配している。◆昨年12月までは、増税の影響もなく売り上げも良かった。1月からコロナウイルスの影響で出始め、1月・2月はやや減少。3月は繁忙期であるが、大幅に売り上げが落ち込むと予想している。◆コロナウイルスの影響で売上が昨年比65%程度になった。3月もこの影響が続くと大変厳しい状況になる。◆コロナウイルスの影響で、3月予約キャンセル続出。◆1月の売上は前年より少し良かったが、コロナウイルスの影響により2月の売上は前年より2割減少。地域のイベントや歓迎会のキャンセルの影響が出始めている為に3月以降の売上の目途が全く立たない状態。◆新型コロナウイルスの影響の中お客様の出入りが例年に比べて少ない。先行きも見えない。</p>